

平成26年度スーパーグローバルハイスクール構想の概要

指定期間	ふりがな	しづやきょういくがくえんしづやこうとうがっこう				②所在都道府県	東京都
26～30	①学校名	渋谷教育学園渋谷高等学校					
③対象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年	4年	計	平成25年度在籍数 615名	
普通科	208名	206名	201名		615名	1年 208人 2年 206人	
						3年 201人	
⑥研究開発構想名	探究型学習を、いかにして「行動できるリーダーの育成」につなげるか						
⑦研究開発の概要	複数教科・科目から学ぶアプローチと、問題発見・解決型の活動を重視し、それにより知識の充実、発信意欲・技術の向上、交渉・連携しつつ行動する力の強化を図る。テーマを「人間の安全保障」とする。						
⑧研究開発の内容等	⑧-1全体	<p>(1) 目的・目標</p> <p>目的:グローバル・ 이슈に対する基礎的な知識の習得、自ら課題を発見する強い好奇心、ものごとを多角的に検証し課題を解決に導く思考力、コミュニケーション能力や行動力を備えた人材の育成。</p> <p>目標:海外の高校生との議論を通して自分自身について考え、新たな行動の動機付けにつなげること。</p> <p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説</p> <p>現状の分析:知識はあるが、広い視野でものごとを考えられない生徒が一定数おり、問題の深刻さに気づけない傾向にある。また、本校の生徒の英語力は高いが、その場で議論ができる力については強化が求められる。</p> <p>研究開発の仮説:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 課題への探究活動を通じて、生徒に問題意識を喚起させ、互いの意見を交わすことで、多面的なものを見方を育むことができる。</li> <li>2. 国語科の教科指導や論文指導を通じて、論理的思考力を育むことができる。</li> <li>3. 英語力の自信の有無による制限は設けず、様々な英語の探究課題に取り組みせることで、すべての生徒の発言力を強化することができる。</li> <li>4. 国内外の高校生や大学・大学院生、企業や国際機関などの専門家と授業内外で交流することによって、お互いに刺激し合い、行動力の触発につなげることができる。</li> </ol> <p>(3) 成果の普及</p> <p>学会や教育事例コンテストなどでの発表、ホームページ上での公表、メディアを通じた取り組みの紹介、幕張高校と提携した情報共有</p>					
	⑧-2課題研究	<p>(1) 課題研究内容</p> <p>課題研究内容: グローバル・ 이슈として「人間の安全保障」を取り上げ、平和や人権に関わる課題に取り組む。加速する変化の時代を生き抜く方策を考え、多面的・複合的な平和学習を行い、交流を通して人の結びつきの意義を実感し、実際に社会貢献活動を企画し行えるような探究活動を通じ、高校生が課題解決に向けての方策を考え実践できる人材へと成長できるカリキュラムを開発する。テーマとしては「人口動態の変化と女性の教育・働き方」(The World in 2050、Social Justice)、「核兵器の現状と課題」(Project Hiroshima、修学旅行プロジェクト)、「紛争とこどもの人権」(Wars and Conflicts)を挙げ、深めていく。</p> <p>(2) 実施方法・検証方法</p> <p>&lt;実施方法&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● The World in 2050 (知識、発信) これからの社会についての分析・予測から、今なにをすべきか考える</li> <li>● Project Hiroshima (知識、発信、行動) 核兵器、平和、歴史、文化などの観点から広島について広く深く学ぶ</li> </ul>					

		<ul style="list-style-type: none"> <li>● Wars and Conflicts (知識、発信) 平和に関する学びのまとめとして、現実の課題を見つけその解決策を模索する</li> <li>● 修学旅行プロジェクト (知識、行動) 事前事後の学習を充実させ、現地での人的交流を行う</li> <li>● Social Justice (知識、発信、行動) 学びを拡張し、人々が安心・安全に暮らせるための社会貢献活動を行う</li> </ul> <p>&lt;検証方法&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● プロジェクトの開始前後に関連したトピックで英文のエッセイを書かせ、内容や使用されている語彙の違いを検証する。また、参考として、本プロジェクト対象生徒の中から無作為に数名を選出し、同時期に同トピックでスピーチをさせる。</li> <li>● プロジェクト前後に、日本語と英語とを問わず、ニュースに対する興味、データの活用に対する関心、自主的な学習習慣についてのアンケートを行い、検証する。</li> <li>● 本プロジェクトに関連する、国内外の公益性の高いコンテスト・国際学生会議等に自主的に参加したか、またどのような貢献ができたのかをヒアリングする。</li> </ul> <p>(3) 必要となる教育課程の特例等 特になし</p>
<p style="text-align: center;">⑧ -3 上 記 以 外</p>		<p>(1) 課題研究以外の研究開発の内容・実施方法・検証評価 中高一貫校である特徴を活かし、6年間を通じて、英語力・論文作成を通じた論理的思考力・情報リテラシーを向上させる取り組みを行う。生徒へのアンケート、GTEC を含めた外国語運用能力テストの実施、外部コンテストへの積極的な参加を通じて検証を行う。</p> <p>(2) 課題研究の実施以外で必要となる教育課程の特例等 特になし。</p> <p>(3) グローバル・リーダー育成に関する環境整備，教育課程課外の取組内容・実施方法 帰国生及び留学生の積極的な受け入れ、海外留学支援、英語圏及びアジア諸国への海外研修の実施。</p> <p>(4) 幹事校としての取組(該当する場合のみ記入) 特になし。</p>
<p>⑨その他 特記事項</p>		<p>平成 30 年度を目標に幕張高校と連携し、国内外の高校生が参加できる国際会議を開催する。また、新潟県と連携し、教員を年間を通じて受け入れ、SGH の授業に参画することで、プログラムの普及に努める。</p>

ふりがな	しゅやきょういくがくえんしゅやこうとうがっこう	指定期間	26～30
学校名	渋谷教育学園渋谷高等学校		

## 平成26年度スーパーグローバルハイスクール 目標設定シート

1. 本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）								
	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	目標値(30年度)
自主的に社会貢献活動や自己研鑽活動に取り組む生徒数								
a	SGH対象生徒:							130人
	SGH対象生徒以外:		67人	84人	人	人	人	人
目標設定の考え方: マルカム・グラッドウェルが述べている様にあるトレンドが1/3を超えると、そのトレンドは一気に全体に広がって行く。いずれ、ボランティア活動や起業塾などへの参加、また大学の授業の自主的な受講など、自ら目的を持って校外の活動に参加する事が当たり前になる様に、ここでは校外の活動に自主的に参加する生徒数を30年度までに高校1-2年生の1/3にすることを目標とする。								
自主的に留学又は海外研修に行く生徒数								
b	SGH対象生徒:							85人
	SGH対象生徒以外:		66人	87人	人	人	人	人
目標設定の考え方: 高校時における留学や海外研修は本人の意向だけでなく家庭の経済状況が大きく影響するため、たとえSGHのプログラムを実施しても大幅な増加は見込まれないと考える。現状を維持しつつ、微増を目指す。								
将来留学したり、仕事で国際的に活躍したいと考える生徒の割合								
c	SGH対象生徒:							45%
	SGH対象生徒以外:		35%	41%	%	%	%	%
目標設定の考え方: 将来グローバルな舞台上で活躍する具体的なイメージを持ち進学する学生数が、全校生徒の5割をこえることを目指したい。								
公的機関から表彰された生徒数、又はグローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における入賞者数								
d	SGH対象生徒:							80人
	SGH対象生徒以外:		14人	12人	人	人	人	人
目標設定の考え方: 積極的な校外での活動を推進するため、今の人数を二倍に増やしたい。								
卒業時における生徒の4技能の総合的な英語力としてCEFRのB1～B2レベルの生徒の割合								
e	SGH対象生徒:							90%
	SGH対象生徒以外:		85%	85%	%	%	%	%
目標設定の考え方: 現時点で卒業時にCEFRのB1-B2レベルの生徒は7割近い。現状維持以上を目指すと共に、特にボトルネックとなっている「話す力」の向上を目指す。								
(その他本構想における取組の達成目標)bのうち、自主的に留学に行く生徒の内訳								
f	SGH対象生徒:							15人
	SGH対象生徒以外:		13人	11人				
目標設定の考え方: 現状を維持しつつ微増を目指す。								
(その他本構想における取組の達成目標)bのうち、自主的に海外研修に行く生徒の内訳								
g	SGH対象生徒:							80人
	SGH対象生徒以外:		53人	76人				
目標設定の考え方: 現状を維持しつつ微増を目指す。								

1' 指定4年目以降に検証する成果目標								
	24年度	25年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	目標値(33年度)
国際化に重点を置く大学へ進学する生徒の割合								
a	SGH対象生徒:							80%
	SGH対象生徒以外:		70%	70%	%	%	%	%
目標設定の考え方: 海外大学の合格者数が増えることを考えると、現状維持か微増。								
海外大学へ進学する生徒の人数								
b	SGH対象生徒:							12人
	SGH対象生徒以外:		4人	8人	人	人	人	人
目標設定の考え方: ただし合格者数は、30年度までに延べ60名以上を目標とする。								
SGHでの課題研究が大学の専攻分野の選択に影響を与えた生徒の割合								
c	SGH対象生徒:							25%
	SGH対象生徒以外:		-	-	%	%	%	%
目標設定の考え方: 教科のプロジェクト型学習内で大学や企業とかかわることなどを通して、大学での学問に対する生徒のモチベーションを上げていくが、専門分野の選択についてはこのプロジェクト外にある本校のキャリア教育が充実しているので、そちらの影響を多く受けると考えられる。								
大学在学中に留学又は海外研修に行く卒業生の数								
d	SGH対象生徒:							120人
	SGH対象生徒以外:		-	-	人	人	人	人
目標設定の考え方: 高校までのSGHのプログラムを通して培った能力を、海外に出て発揮する機会に目を向けさせる。								

2. グローバル・リーダーを育成する高校としての活動指標（アウトプット）								
	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	目標値(30年度)
a	課題研究に関する国外の研修参加者数							
	0人	12人						120人
	目標設定の考え方： 現在、課題研究において連携しているのはSt. Stephen's Episcopal Schoolだけである。一方、高校2年の宿泊研修において生徒は行き先を中国と九州から選択でき、学年の半数ほどは中国を選択する。ただし、その年の情勢によっては中国研修を中止せざるを得ない場合もある。							
b	課題研究に関する国内の研修参加者数							
	400人	400人						400人
	目標設定の考え方： 修学旅行を課題研究のフィールドワークに位置付けているので、高校1-2年生全員が対象となる。							
c	課題研究に関する連携を行う海外大学・高校等の数							
	0校	1校						5校
	目標設定の考え方： 現在はSSESだけだが、以後は連携校を増やしていく予定である。							
d	課題研究に関して大学教員及び学生等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)							
	10人	10人						100人
	目標設定の考え方： Hiroshima Projectで大学の留学生からアドバイスを受ける機会をもつなど、各教科のプロジェクト型授業において、大学生や留学生とかかわることのできる機会を増やす。							
e	課題研究に関して企業又は国際機関等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)							
	0人	0人						50人
	目標設定の考え方： 『2050年の世界』を用いた各教科のプロジェクトなどにおいて、企業や国際機関の専門家の講義や助言を受けられる機会を増やす。							
f	グローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における参加者数							
	60人	60人						70人
	目標設定の考え方： 現在も様々な国際問題に関心のある生徒が多く、国際会議などについて自ら調べ志願する生徒は多い。今後のカリキュラムの変革を通じてさらに生徒に機会を提供しモチベーションをあげていく。							
g	帰国・外国人生徒の受入れ者数(留学生も含む。)							
	50人	60人						60人
	目標設定の考え方： 各学年に該当する生徒が60人程度在籍している。留学生も積極的に受け入れている。現状維持を目指す。							
h	先進校としての研究発表回数							
	0回	0回						3回
	目標設定の考え方： 学会などの発表は年2-4回を基本とし、その他本校ホームページ、メディア、幕張校との情報共有、ウェブ上のプラットフォームを通じた情報発信など。							
i	外国語によるホームページの整備状況							
	○整備されている △一部整備されている ×整備されていない							
	△	△						○
	目標設定の考え方： 現在英語によるホームページはあるが、更新はされていない。今後はSGHの取組や成果を積極的に発信し、海外でのプレゼンスを高める。							
j	(その他本構想における取組の具体的指標)							
	目標設定の考え方：							

<調査の概要について>

1. 生徒を対象とした調査について

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
全校生徒数(人)	602	604					
SGH対象生徒数							
SGH対象外生徒数			0	0	0	0	0